

2011年2月1日 作成
2011年2月1日 改訂

環境活動レポート

2010年度（1月 - 12月）

株式会社 中セキ北陸

〒920 - 8628
石川県金沢市神宮寺 2-20-8
Tel: 076 - 252 - 5246
Fax: 076 - 252 - 2754

承認	審査	作成
		

1, 組織の概要

1) 最高責任者名

代表取締役社長 山路 一隆

2) 所在地および活動対象事業所

〒920-8628 石川県金沢市神宮寺2-20-8

株式会社中セキ北陸 本社

〒919-0473 福井県坂井市春江町本堂22

株式会社中セキ北陸 培土工場、坂井営業所

3) 環境保全関係の責任者および担当者連絡先

環境管理責任者 管理部 三崎 憲治

事務局 管理部 井上 将彦

連絡先 電話 ; 076-252-5246 (代表)

FAX ; 076-252-2754

E-mail ; kanri02@iseki-h.co.jp

4) 事業の内容

農業機械の販売・修理、施設設計・施工、広告宣伝物の配布

育苗用培土生産、販売

5) 事業の規模

全社売上高 ; 8,015 百万円 (平成22年度)

本社、培土工場単独での売上規模は把握が困難なため、全社の売上高を記述している。

従業員 ; 認証取得サイト50名となる。(本社:26名、培土:24名)

延べ床面積 ; 16,739.87㎡

2. 対象範囲

現在、対象範囲は本社と培土工場、坂井(営)ですが、今後は下記の予定で認証サイトを拡大したいと考えております。

拠点名	事業内容	実施対象	実施予定
本社		○	—
培土工場、坂井(営)	培土製造・販売、農機販売	○	—
富山事務所			2012年
富山営業部	富山県内農機営業所統括	/	/
富山整備センター	農機修理		
富山(営)	農機販売		
レンタル富山(営)	建設機械レンタル		
千木センター			2012年
石川営業部	石川県内農機営業所統括	/	/
石川整備センター	農機修理		
金沢(営)	農機販売		
販売促進部	農機販売推進		
コイン精米部	コイン精米機設置・管理		
レンタル統括課	レンタル事業統括		
レンタル金沢(営)	建設機械レンタル		
レンタル整備工場	建設機械修理		
グリーン推進課	ゴルフ場整備管理機等の販売修理		
福井事務所			2012年
福井営業部	福井県内農機営業所統括	/	/
福井整備センター	農機修理		
福井(営)	農機販売		
部品課	部品販売		
特販部フラワー推進課	花の卸売		
黒部(営)	農機販売		2013年
高岡(営)	農機販売		"
砺波(営)、レンタル砺波(営)	農機販売、建設機械レンタル		"
小松(営)、レンタル小松(営)	農機販売、建設機械レンタル		"
レンタル金沢西(営)	建設機械レンタル		"
能登(営)	農機販売		"
奥越(営)	農機販売		"
丹南(営)	農機販売		"
敦賀(営)	農機販売		"
若狭(営)	農機販売		"

3, 環境方針

(株)中セキ北陸の本社機能、農業機械の手配業務、農業施設の設計業務、広告宣伝物の配布業務等を担う本社および育苗用培土の生産・販売を行う培土工場は、環境に関わる重要性を認識し、環境に優しい事業活動を行うために最高責任者を筆頭に、各部門の業務展開を行う過程で環境に対する継続的改善を実行します。

- 1、環境に関連する法規制等を遵守します。
- 2、環境マネジメントシステム(EA-21の考え方)を効果的に運用し、環境問題のリスクを回避します。
- 3、運営にかかる電力量・化石燃料の削減に取り組みます。
- 4、紙を中心とした廃棄物の削減に努めます。
- 5、水使用量の抑制と適正使用に努めます。
- 6、環境レポートを公表し、環境コミュニケーションに積極的に取り組みます。
- 7、環境保全型商品の拡販および環境保全型施設の設計に努めます。

—この環境方針は、要求があった場合、社外の人にも公開します。—

平成22年2月1日

株式会社 中セキ北陸 本社最高責任者

代表取締役社長 山路 一隆

4, 環境目標

本社

EA-21のコア指標である二酸化炭素排出量、水使用量、廃棄物処理量の削減などに環境目標を設定した。環境負荷低減のための目標は次のとおりである。

本社敷地内では全社目標として二酸化炭素排出量(内訳として電力量・化石燃料使用量)、紙を中心とした廃棄物最終処分すなわち購入量、水資源投入量の3項目の削減目標を定めている。

2002～2004年度の3か年平均値を基準とした環境目標と削減率

環 境 目 標	基準値	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	目標値
二酸化炭素排出量	85,540	2 %	3 %	4 %	5 %	81,265
購入電力量	102,077	2 %	3 %	4 %	5 %	96,973
化石燃料使用量	19,987	2 %	3 %	4 %	5 %	18,988
水使用量	2,102	2 %	2 %	3 %	3 %	2,040
コピー用紙購入量	245,833	2 %	3 %	4 %	5 %	233,542

培土工場

初年度は1%削減を目標とし、二酸化炭素起源である購入電力量および化石燃料使用量、コピー用紙購入量は1%/年、水使用量は年間1%を目標に、向こう5年間で5%とした。

2006～2008年度の3か年平均値を基準とした環境目標と削減率

環 境 目 標	基準値	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	目標値
二酸化炭素排出量	2,459,116	2 %	3 %	4 %	5 %	2,409,936
購入電力量	851,175	2 %	3 %	4 %	5 %	834,152
化石燃料使用量	857,335	2 %	3 %	4 %	5 %	840,189
水使用量	1,414	2 %	2 %	3 %	3 %	2,772
コピー用紙購入量	37,500	2 %	3 %	4 %	5 %	36,750

自らが販売・提供する製品

農業が置かれている状況を勘案し、向こう5年間基準値を維持していくことを目標とした。

2005～2007年度の3か年平均値を基準とした普及拡大目標

	基準値	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
側条施肥田植機	334	334	334	334	334	334
乗用管理機	36	36	36	36	36	36
温湯消毒機	23	23	23	23	23	23
温湯消毒設備	1	1	1	1	1	1
遠赤型乾燥機	3	3	3	3	3	3

5, 環境活動計画

(1)環境負荷削減の徹底

①二酸化炭素排出量の削減

電気使用量の削減

- ☆ 室温管理の徹底(冷房28℃/暖房20℃)…温度計の(小まめな)確認
→ クールビズ・ウォームビズの提案・推進へ
- ☆ 昼休み・空室時の(小まめな)消灯、外出時の(小まめな)パソコン電源オフ
- ☆ 不用時の(小まめな)電源オフ(湯沸かしポット・パソコンなど)
- ☆ 省エネ器機・電灯への切換え推進・提案

化石燃料使用量の削減

◆ ガソリン

- ☆ 無駄なアイドリングの禁止
- ☆ エコドライブ・スマートドライブの徹底(急発進・急加速・急ブレーキの自粛)
- ☆ 不要物の積載禁止
- ☆ 定期的な車輛点検の実施(空気圧など)
- ☆ その他 公共交通機関の積極的利用、なるべく同乗をする … など

◆ 軽油(フォークリフト)

- ☆ 効率的な作業の実施
- ☆ 作業休止時のエンジン停止

②事業系一般廃棄物の削減

- ☆ 手持・社内資料には使用済用紙裏面使用の徹底
- ☆ 両面コピーの活用
- ☆ 社内メール・PDFファイル等の積極的使用による文書の電子化
- ☆ 事業所ゴミの分別管理の徹底
 - i. 古紙(ダンボール・新聞紙・シュレッダーダスト)
 - ii. 生ゴミ(弁当くず 他)
 - iii. 廃プラスチック類(ペットボトル、弁当容器 他)
 - IV. 不燃ゴミ(ビン・缶・乾電池・電球 他)

③水道水の削減

基本使用量削減の意識付けへ

- ☆ (小まめな)節水運動の徹底
- ☆ 手洗い、食器洗い時の無駄な流水の禁止
- ☆ 庭木等への上水による散水の自粛

(2)その他の環境推進活動

①産業廃棄物の適正処理

- ☆ 産廃の発生抑止運動
- ☆ マニフェスト管理の徹底

②3R運動の推進

- ◎ Reduce : 発生抑制(ゴミを出さない)
- ◎ Reuse : 再使用(使えるものは繰り返し使う)
- ◎ Recycle : 再生利用(再使用できないものは再利用)

③グリーン購入の推進

- ☆ 環境にやさしい製品の優先的購入(環境ラベル等の表示より)
- ☆ 環境経営を推進している企業の積極的な活用

(3)各部門であつかう環境保全商品のご案内

①側条施肥型田植機

田植えと同時に肥料をスポットに施すことによって、水面の肥料流失が少なく効率的な施肥と水質の環境保全に有効です。

②乗用管理機

各々専用の作業機を搭載することが可能で、田植、施肥、除草、病害虫防除などの作業を1台で行うことができ、水稻管理作業の労働負担を軽減します。農薬や肥料の適期高精度散布による環境負荷低減が期待できます。

①遠赤外線型乾燥機

この乾燥機は暖められた放射体から放射される波長の長い赤外線によって穀物を乾燥させる設備です。乾燥機下部に設置した放射体で遠赤外線を発生させ、乾燥を促します。遠赤外線と低温通風により籾の中心から穀物を温め胴割れを防止し、さらに傾斜板に沿って流れる一粒ずつに遠赤外線を照射する全粒照射方式によりムリ・ムラ・ムダを抑えた乾燥ができます。

②温湯消毒設備

お米の種子を消毒する際に、農薬を使用せず 温湯で消毒する装置を備えた設備。近年、クリーン農業の推進とともに種子消毒にも減農薬防除技術が望まれていることより、「温湯消毒」が普及し始めています。

6. 環境目標の実績とその評価

本社

環境目標	2010年 目標値	2010年 実績	増減率	評価	2009年 実績	前年対比
CO2排出量	81,265.0	68,796.0	-15.3%	○	65,657.0	3,139.0
電力購入量	96,973.0	100,719.0	3.9%	△	92,890.0	7,829.0
化石燃料使用量	18,988.0	13,217.0	-30.4%	○	13,142.0	75.0
水使用量(m ³)	2,040.0	1,484.0	-27.3%	○	1,490.0	△ 6.0
コピー用紙 購入量(枚)	233,542.0	232,500.0	-0.4%	○	265,000.0	△ 32,500.0

- 目標値以上に達成(総量)
- △ 目標値未達成もしくは目標値(総量)未達成率50%以内
- × 目標値未達成かつ目標値(総量)未達成率50%超

CO2排出量は前年対比で増加しているが、新型空調設備の導入、断熱性の高い窓ガラスの導入など経済的負担が伴う省エネ策には限度があるので、電力消費の大きいエアコンの温度管理、パソコンモニターなどのこまめな消灯、エコドライブ・スマートドライブの実施を徹底する。紙の使用量は、昨年は目標値対比で未達だったが、今年は前年対比とも到達しており、削減効果は表れている。施設事業部の工事は、規模の大きさ、件数増加と産廃排出量が比例し、不適切な処理をするリスクが高まるので、継続して適切な処理をするよう注意喚起していく。

培土工場

環境目標	2010年 目標値	2010年 実績	増減率	評価	2009年 実績	前年 対比
CO2排出量	2,409,936.0	2,487,141.0	3.2%	△	2,386,159.0	100,982.0
電力購入量	834,152.0	828,258.0	-0.7%	○	773,916.0	54,342.0
化石燃料使用量	840,189.0	872,195.0	3.8%	△	839,776.0	32,419.0
水使用量(m ³)	2,772.0	1,616.0	-41.7%	○	1,906.0	△ 290.0
コピー用紙 購入量(枚)	36,750.0	27,500.0	-25.2%	○	42,000.0	△ 14,500.0

- 目標値以上に達成(総量)
- △ 目標値未達成もしくは目標値(総量)未達成率50%以内
- × 目標値未達成かつ目標値(総量)未達成率50%超

電力購入量、化石燃料使用量の増加がCO2排出量増加につながった。これは生産量が増加したためだが、生産量を落とさずにCO2排出量削減に結びつける取組(生産効率の向上)が未実施で、今後の課題である。産廃の排出に関して、容器更新が増加すれば産廃排出量も増加するので、適切な処理をするよう注意喚起していく。

7, 環境関連法規遵守状況の評価

環境関連法規のチェックは、半年に一度、環境省・石川県・福井県等のホームページにて事務局が法規制の変更情報を入手のうえ実施することになっているが、このたび環境関連法規の遵守状況をチェックした結果は次のとおり。

内 容	12月末
廃棄物処理法	○
消防法	○
大気汚染防止法	○
省エネ法	該当せず
訴訟の有無	無し

なお、関係当局より違反等の指摘は、過去3年間ありません。

8, 代表者による全体評価と見直しの結果

当社の環境経営システムは、概ね有効に機能していると判断する。

但し、電気使用量については改善が必要とし、運用そのものの見直しも含め再度意識付け・教育の徹底を図っていかなければならない。

2010年度 代表者による 全体評価 及び 反省

株式会社 中セキ北陸

2010年度当社の環境活動において、下記の通り評価・見直し致します。

① 購入電力量 削減について

従量電灯購入量は、2年連続削減してはいるものの、目標値対比では依然大きく上回っている。低圧電力購入量は目標値対比では削減されているが、昨年より平均気温が高くなった影響により夏場の使用量が増え、前年対比増加につながっている。目標値の見直しも含め、こまめな消灯、業務の効率化、電灯の間引きなど従来の取組を徹底するとともに、温度管理のチェックを強化して購入電力量削減を図りたい。

② 化石燃料使用量 削減について

ガソリン使用量は前年とほぼ変わらなかったが、平成22年は施設事業部で大型工事があったことを勘案すると、削減に対する取り組みは効果を上げている。引き続き、エコドライブ、スマートドライブの呼びかけをして、更なる削減に努めたい。

③ 紙使用量について

目標値をクリアし、なお且つそれが内部統制、新システム導入前の数値がもととなっていることを勘案すると、削減努力は効果を上げている。平成22年が前年対比で大きく削減されている分、平成23年は逆に前年対比で大きく増加する可能性があるため、引き続き、社内メール、PDFファイルの積極的な活用を推進していく。

④ 水道使用量 削減について

水道使用量に大きな影響を及ぼすのは、融雪による使用である。目標値設定時から暖冬化が進んでいることを勘案すると、水道使用量が目標値をクリアすることは必然である。よって、目標値クリアで満足するのではなく、絶対値削減に努め、従来の取り組みは地味ではあるが重要であることを忘れることなく、引き続き推進していきたい。

⑤ 培土工場の環境負荷削減取組について

平成22年は培土工場での取り組みが2年目で、本社サイトと同様の取り組みでは成果が表れたが、環境負荷が大きい生産活動に関する取り組みは進んではおらず、今後の課題である。原材料仕入時の天候により生産効率が変ることから、従来以上に臨機応変な仕入を実施して生産効率を上げ、絶対値削減に取り組む。

⑥ 環境保全型商品の拡販・推進について

実際に使用されるお客様(主にJA、農家の方々)の環境意識の向上もあり、保全型製品・設備の需要が増加している。一人でも多くのお客様にご認識を頂くため、更なる推進活動を今後も徹底し、地球にやさしい農業を提案していきたい。

(総評) 当社の環境経営システムは、概ね有効に機能していると判断する。

但し、電気使用量については改善が必要とし、運用そのもの見直しも含め再度意識付け・教育の徹底を図っていかねばならない。

以上

平成 23 年 2 月 1 日

山路 一 隆

